

## 巻頭言

## 地域づくりを通して感じる作業療法

村山 拓也\*1, 2

## \*1 新潟リハビリテーション病院

## \*2 新潟県作業療法士会 副会長

最近、地域での活動を通して関わった方から、「どうやったら作業療法士になれるの？子供に作業療法士をすすめたい」との言葉をきくことがある。地域づくりの活動を通して作業療法の良さを知ってもらったからなのだろうと感じた。

## 地域関連事業に関わるきっかけ

数年前、理事になって初めて行った活動は、当時の横田会長が県内各地で総合事業や地域包括ケアシステムについて説明会を行うための準備と運営だった。何度も同じ話を聞いていたがよく分からなかった記憶がある。その後も立て続けに、日本作業療法士協会の地域包括ケアシステムや地域ケア個別会議に関わる研修会に参加したり、新潟県リハビリテーション専門職協議会の会議や研修会に参加した。あっという間に時間が流れたが、自分の知らないこと、知らなければならぬことが面白く、多くの人との出会いや、研修でのグループワーク、懇親会での話など楽しい時間でもあった。

手探り状態で担当していた地域包括ケアシステム推進に係る事業も、だんだんとなじんできたころ、地域ケア個別会議のモデル事業が始まり、山形県への視察、モデル事業実施市の地域ケア個別会議へ参加、地域ケア個別会議の手引きづくりなども、自分に足りないことに気付いたり、新しいことにチャレンジする楽しさだったりがあった。特に多職種との関わりから、それぞれの考え方の違いや思いなど、連携を図っていくことの難しさや大切さについても学びを得ることができた。この当時の考え方の対立は、今となれば相手を知るととても良い機会だったと思う。

新潟県リハビリテーション専門職協議会の研修事業運営では、OT協会の佐藤孝臣理事が運営する事業所で実施している通所C事業を視察する機会を得た。翌年から県がモデル事業で実施する通所C事業と連動した活動であった。この事業を通じて率直に感じことは「こんなに良くなるんだ」「今まで自分たちがやっていたことって・・・」やっていた内容は根拠に基づく介入と作業療法の視点だった。モデル事業へも運よく関わることができ、体験を通じて実感もできた。

## 地域づくりへの関わり

前述したような経験もあり、現在、新潟県介護予防アドバイザーとして活動する機会を得ている。活動を通じて、地域包括ケアシステム構築に地域ケア個別会議が活用される理由、介護保険の理念や総合事業の成り立ち、短期集中型のC型事業、住民主体の通いの場、サロンや新潟市の茶の間などのB事業との繋がり、地域リハビリテーション活動支援事業など、作業療法が求められる分野であり、作業療法士が新たに関わっていく必要がある。行政への支援を通じて感じる地域包括ケアシステム構築の大切さ、地域包括ケアシステム構築における高齢の領域で得たノウハウを他分野でも活用して、縦割りの仕組みに横ぐしを刺して協働してつくりあげていく地域共生社会実現に向けた取り組み、これらは作業療法が関わるととても効果的だと思う。

一方で、このような活動に関わることができる作業療法士の数は不足しており、充足することは難しい。地域で活動をした経験がある方は実感されていると思うが、必要とされる地域の活動に全て作業療法士が出向くことは難しく、優先順位をつけて活動されてい

と思う。

### 思い出す言葉

このような時、昔研修会で聞いた言葉を思い出す。当時の日本作業療法士協会の山根副会長の講義での言葉だ。

「作業療法士がいらない世界をつくれればいいんです。そうすれば作業療法士は必要とされますから」

とても共感できる言葉で、今も大好きな言葉だ。

県のアドバイザーとして関わっていると、とてもよく実感できる。

地域に作業療法の考えかたを広げていくことが大切であり、住民一人ひとりが作業療法の考え方「作業は人を元気にする」を体感し、知って、実践していける地域づくりを行えば、おのずと作業療法士は必要とされるのだと思う。

### これから

期待されたときに、期待される作業療法を提供できるようにしていく必要がある。

根拠に基づく作業療法を提供するためには、皆さ

んが普段の関わりで実感したこと、感じたことについて、根拠を示していくことが大切であり求められている。臨床で得たことを学術的に証明していくことは、生涯学習の一つであるが、難しく感じる方も多いと思う。臨床が得意な人、学術が得意な人、お互いが手を取り合って、根拠のある作業療法を証明していけると良いのだと思う。後進が安心して関わられるような作業療法を築くためにも学術誌を活用していけると良いと思う。県士会としても、期待される作業療法を提供できる作業療法士の育成の仕組みづくりを進めていきたい。

### さいごに

普段の臨床現場で関わる患者さんや対象者の方々を含め多くの方が生活している地域に興味をもっていただきたい。皆さんやその家族も暮らしている地域をよりよくするために、作業を通して人を元気にする作業療法の考え方を浸透させ、活用し、その地域をよりよくするために必要な仕組みづくりに関わっていただきたい。

そして、一人でも多くの方に作業療法を知ってほしいし、目指したい職業、選ばれる職業となってほしい。